

令和 6 年度第 1 回奈良市立図書館協議会会議録			
開催日時	令和 7 年 3 月 2 1 日（金）午後 2 時から午後 4 時まで		
開催場所	奈良市ならまちセンター 4 階 YA ルーム		
出席者	委 員	五十嵐和弘委員、丸本佳則委員、中川里美委員、田畑陽子委員、橋本幸子委員、小嶋智美委員、徳永加代委員、西浦富美子委員 【計 8 人出席】	
	事務局	垣見弘明教育部長 森西美也子中央図書館長・中野貴史北部図書館長・森田美里中央図書館主査・前田俊教西部図書館主任・村田直史中央図書館主務・水野幸子中央図書館主務・山田好中央図書館司書	
開催形態	公開（傍聴人 2 人）	担当課	教育部 中央図書館
議 題 又は 案 件	1 正副会長の互選について 2 令和 5 年度事業報告について 3 令和 6 年度事業計画進捗状況について 4 第二次奈良市子ども読書活動推進計画について 5 令和 7 年度事業計画について 6 その他、質疑応答・意見交換等		
決定又は取り 纏め事項	会長は徳永加代委員に、副会長は西浦富美子委員に決定した。 五十嵐和弘委員、丸本佳則委員を署名委員に指名した。		
議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等			
議題 1 正副会長の互選について 出席委員の互選により、正副会長を決定した。			
議題 2 令和 5 年度事業報告について ＜事務局より説明＞ 奈良市内の図書館の概要について説明。奈良市南部地域に図書館がないことが課題。 西部図書館及び北部図書館は貸出冊数が多い傾向にあるが、入館者数は 3 館とも大きな 違いはない。その理由として、西部図書館は貸出に特化しており、中央図書館は移動図書 館や YA ルームの利用等により多くの人が利用していること等を説明した。 ＜意見・質疑＞ ・同じ人が何度も利用することは大切だが、実際に何人が利用しているかも大切なこと なので、入館者延べ人数だけでなく、実利用者数についての質問があった。実利用者数に ついては、令和 2 年から令和 5 年に向けて徐々に回復傾向になっており、令和 6 年度に			

至っては図書受取ロッカーが設置されたこともあり、新しい登録者数は増加している旨を説明した。

・図書館や図書受取ロッカーのない南部地域への対策はあるかとの質問があったため、今後公共施設へ受取ロッカーを設置することや移動図書館の巡回強化を図っていくことも検討していく旨を説明した。

議題3 令和6年度事業計画進捗状況について

<事務局より説明>

- ・雑誌スポンサー制度を導入し、中央図書館にて1件申込があった。
- ・第二次奈良市子ども読書活動推進計画を策定した。
- ・奈良学園大学と協定を結び、夏期に自習室を開放してもらった。
- ・図書受取ロッカーを設置した。3月時点で大和西大寺駅では1ヶ月待ち、西部会館では3週間待ちの状態である。また、平均月300冊貸出、年代別では40代の利用が多く、20～30代も本館利用より図書受取ロッカーを利用している人が多い。
- ・図書館システムを更新した。システムそのものを他社に入れ替えるのではなく、現システムを継続利用したことで、休館せず、特別整理期間に対応することができ、利用者に不便をかけることなく作業することができた。また、OPACを増台することで利用者の利便向上を図ることもできている。
- ・事業としては、中央図書館で帝塚山大学と連携したおはなし会や読み聞かせボランティア養成講座を実施、西部では科学を使った遊びイベントの実施、北部では開館20周年記念として作家の澤田瞳子さんによる講座やアバターロボット展を実施した。
- ・特別整理期間では、館内の環境整備を行う館と本の総点検を行う館があった。
- ・学校図書館支援については、令和5年度からパソコンの入替作業をおこない、令和6年度に完了させた。また、小学校にある学校図書館の環境整備を行い、中学校の学校図書館についても順次行っていく予定をしている。加えて、小中学校へ図書館の本を貸し出す団体貸出を行っており、調べもの学習等でも使いやすいようテーマセットを用意した。

<意見・質疑>

- ・学校図書館ではインターネット環境が整っている学校とそうでない学校と差があり、また、司書がWi-Fiを使用できない環境にあると意見があった。これについては、今後関係機関が出席する子ども読書活動推進懇話会でも議論する必要がある旨を説明した。これに加えて、垣見部長より、図書館の蔵書の管理のため、学校図書館はシステムを一斉に取り替えている。Wi-Fiについては、子ども達の個人情報もあるため、セキュリティを高めている。学校図書館の使い方については学校に委ねているとの答弁があった。
- ・団体貸出のテーマセットがあることをもっと学校に周知すべきである旨意見があった。
- ・ボランティア養成講座の受講者が、その後ボランティアとして活動しているかどうかといった追跡調査をおこない、受講後の支援に繋げてほしいとの意見があった。

議題4 第二次奈良市子ども読書活動推進計画について

＜事務局より説明＞

平成18年度に策定された第一次奈良市子ども読書活動推進計画を引き継ぎつつ、「奈良市教育振興基本計画」「奈良市教育大綱」や国の定める「子ども読書活動推進基本計画（第二～五次）を踏まえ、この度第二次奈良市子ども読書活動推進計画を策定した。この計画についての概要及び目標、基本方針、今後の進行等について説明した。

＜意見・質疑＞

- ・計画が完成したことで終わることなく、学校や保護者へ周知することも含めて、今後計画に沿って活動していったほしいと意見があった。
- ・図書室を開けると利用する児童生徒は少なくないが、学校図書館に来てくれるボランティアは年々減少している。現在の図書館支援司書10名では、時間に制限もあるため、改善しきれていないことも多いと思う。今後、司書の増員を望むとの意見があった。
- ・デジタル化していくなかで、紙媒体とデジタルで分けて考えるのではなく、両方とも考えていくべきであり、電子書籍等も読みやすいものにしていく必要があるのではないかと意見があった。
- ・現在、子育て広場を利用している親子に、広場所有の本を貸し出しており、お母さんが子どもと絵本に触れ合う機会ができているという情報提供があった。

議題5 令和7年度事業計画について

＜事務局より説明＞

- ・図書受取ロッカーの増設に向けて、調整を行っている。
- ・西部図書館にてLED照明工事をおこなう予定。
- ・子ども読書活動推進懇話会を開催し、第二次奈良市子ども読書活動推進計画の進捗状況について関係各課等から報告をおこない、委員の意見を踏まえ、計画の点検・評価をおこなう。
- ・移動図書館について、令和6年度から巡回を始めた市役所に加え、新たにはぐくみセンターへ巡回する。また、子ども園幼稚園保育所へ巡回し、年齢に応じた読み聞かせなどの絵本体験を行い、希望がある場合は図書の貸出をおこなう。
- ・0歳児に対して、絵本のプレゼントと読みきかせ体験をしてもらうブックスタート事業を始める。これは、絵本をプレゼントするだけでなく、ファーストブック等のイベントに来てもらうことで、次回の図書館利用を促すことを目的としている。

議題6 全体を通して意見・質疑

- ・コロナ禍以前に、月に1回学校図書館の地域開放を行っていた。図書館から遠い南部地域も学校図書館の開放をするといいのでは、と提案があった。
- ・計画を完成したことで終わらず、イベントや取り組みを周知し、図書館の存在を知ってもらうことが大切である。また、官民連携で本と親しむ機会を増やしていけたらいいという意見があった。
- ・施設が老朽化しているため、環境整備をおこなってほしいとの意見があった。
- ・学校図書館を充実させていきたいが、学校も人手不足であり、図書担当職員も時間を割

くことが難しくなっている。そこで、大学生を学校へ派遣してもらうことはできないかと提案があった。委員より、現在でも認定絵本土である学生が子ども園等いろんな場所へ赴いているが、授業や実習がある学生であるため、全てに対応することはなかなか難しいとの回答であった。また、ネットワークを構築し、いろんな活動をつなげていくことは大切だとの意見があった。

資 料

【資料１】令和５年度事業報告

【資料３】第二次奈良市子ども読書活動推進計画（概要含む）